

SARS-CoV-2 感染拡大を契機とした検査科での新たな取り組みと現状

◎久保田 茜¹⁾、小塩 智康¹⁾、高橋 のぞみ¹⁾、難波 真砂美¹⁾、津浦幸夫¹⁾
国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院¹⁾

【はじめに】2020年2月から現在も遷延する新型コロナウイルス感染症に対し、当院では専用病床や発熱外来の開設などの策を講じてきた。検査科でも検体採取業務への参画やコロナ関連検査の拡充により感染制御に貢献してきた。今回は検査科の取り組みと現在の体制について報告する。

【経緯】検体採取業務は2020年4月より市が開設したPCRセンターへの検査科員派遣を行ってきた。院内でも各診療科で行っていた検体採取を検査科に要望する声があり、2020年8月より事前PCR検査室を開設した。更に2021年10月より入院当日しか来院できない患者のための当日スクリーニング検査を対象とした病棟採取室も開設した。この3か所で全検査科員が輪番制をとり業務にあたっている。コロナ関連検査は2020年4月より外部委託PCR検査、6月より院内で抗原検査を開始。院内の遺伝子検査として7月よりLAMP法、9月よりマルチプレックスPCRである「FilmArray」(以下FA)、2021年12月より更に短時間で測定可能なリアルタイムPCR「Liat」を導入した。

【現体制と運用】①検体採取業務への参画：市のPCRセン

ターは市中感染が小康状態にあるため現在は週3日のみ業務にあたっている。事前PCR検査室には午前1時間半、午後3時間ほど在室し採取を行う。月平均は1015件である。②コロナ関連検査の拡充：2021年12月現在の月平均は抗原532件、外部委託PCR458件、LAMP法488件、FA985件である。抗原検査はPCRとの同時オーダーが主で、LAMP法と外部委託PCRは結果が翌日以降に出るため予定入退院前スクリーニングに用いられる。約50分で結果が出るFAは発熱外来の疑似症患者や急なオペ等の緊急性が高い場合に選択される。Liatは約20分で結果が出るため救急外来限定で運用を開始した。これにより患者の入れ替わりが激しい処置室で待機患者が滞留することがなく、更に現場スタッフの負担軽減や感染制御に役立っている。

【まとめ】検体採取という新たな分野への業務拡大と様々な用途に合わせた検査の拡充により院内感染ゼロという結果に貢献できた。今後も感染制御に努め臨床のニーズに沿った検査科業務を目指していきたい。

中央検査科 (2378)